

学生の提言書に対する大学の正式回答

2024年3月27日

■ はじめに

『学生の声 提言書』では、教学・学生生活にかかわり幅広く、深い提案がなされています。学生のみなさんが、APUでの学びと学生生活を充実、発展させるため、真剣に考えて行動を起こしてくださったことに感謝します。

今回、提案していただいた内容について、施設にかかわる点についてはアドミニストレーション・オフィス、カフェテリアにかかわる点はAPU生活協同組合、授業や教育にかかわる点は、教学部で検討を行いました。学生生活全般にかかわる点は、学生部で検討を行いました。複数の部署にかかわる点は、それぞれの部局での検討をもちより、集約しました。APUの構成員一人ひとりが本文書に目を通し、よりよい大学づくりを真に考える一布石になることを願います。

■ 2023年度取り組みの概要

(1) 学生からの意見の収集

- (ア) 収集期間：2023年6月8日（木）～9月20日（水）
- (イ) 対象者：全学生（学部生および大学院生）
- (ウ) 収集方法：Moodleの「オープンフォーラム」での投稿
- (エ) 投稿カテゴリ：学生生活、正課授業、課外活動、施設・設備、事務（オフィス関連）、進路・就職、国内交流・国際交流、学習サポート、ゼミ・研究、入試
- (オ) 告知方法：キャンパスターミナル、キャンパス内ポスター掲示、Moodleでのアナウンスメント
- (カ) 投稿件数：147件
- (キ) 投稿内容（詳細別紙）の内訳：施設・設備51件、学生生活42件、正課授業26件、課外活動10件、入試9件、国内交流・国際交流3件、進路・就職3件、学習サポート2件、事務（オフィス関連）1件、ゼミ・研究0件

(2) プロジェクト学生の採用および活動

- (ア) 募集期間：10月17日（火）～10月22日（日）
- (イ) 募集ガイダンス：10月18日（水）
- (ウ) 書類選考：10月23日（月）～10月25日（水）
- (エ) 面接審査：10月30日（月）～11月1日（水）
- (オ) 合否結果発表：11月6日（月）
- (カ) 採用者数：5名（ウズベキスタン出身・APM3回生、ベトナム出身・APS3回生、インドネシア出身・APM4回生、バングラディッシュ出身・APM3回生、日本出身・APM2回生）

■ 大学に対する学生からの提言の主題目と関連部署

1. APUウェブサイトにおける奨学金基準の透明性向上	学生部 スチューデント・オフィス
2. APU Zoom アカウントへの学外関係者のアクセスの許可	教学部 アカデミック・オフィス
3. カフェテリアの食事の品質と価格への対応	アドミニストレーション・オフィス
4. APU発着の大分交通バスサービスの拡充	アドミニストレーション・オフィス
5. Off-campus Study Program 参加への経済的支援の増加	学生部 スチューデント・オフィス
6. 反対言語基準クラスでの学習経験の向上	教学部 アカデミック・オフィス
7. APU キャンパスにおける給水器の増設	アドミニストレーション・オフィス

■ 提言書に対する大学の回答

ここでは、各提言に対する大学の回答を記します。

提言1 APU ウェブサイトにおける奨学金基準の透明性向上

【学生の問題意識】

APUの授業料減免奨学金授与には、透明性に関する懸念があります。多くの学生が、奨学金受給者の選考基準について困惑し、混乱や不満を募らせています。特に、成績優秀な学生にとっては、成績があまり良くないと思われる同級生が、より多額の学資援助を受けていると感じ、落胆することがあります。

【学生からの解決案】

この問題に対処するため、授業料減免奨学金専用のウェブページに、包括的でわかりやすい説明を掲載することを提案します。そこでは、経済的な必要性、学業成績、課外活動への参加と実績、多様性への配慮（民族的／文化的背景など）など、選考プロセスで考慮される要素を明確に説明する必要があります。APUは、奨学金選考のプロセスをわかりやすく説明することで、学生の間に公平感と信頼感を醸成し、成績優秀な学生に継続的な努力を促すと同時に、最も必要としている学生に必要な支援を提供することができます。

回答

ホームページ上の説明については、アドミッションズ・オフィスとも協働して、より分かりやすい説明になるよう改善を図ります。APUでは、優秀な国際学生への経済的支援として、入試の時点で可否と同時に選考を行う授業料減免制度があります。詳細については、アドミッションズ・オフィスのホームページ上に記載されており、①提出書類、②面接でのパフォーマンス、③オンラインアセスメントを総合的に評価して決定するとしています。①の提出書類の中には、言語力、高校での成績や各国で実施される統一試験の成績、エッセイ、学外での活動証明、経費支弁者の所得や資産状況などがあり、学業や人物面だけでなく、経済状況についても勘案されています。そのため、奨学金の減免率が、必ずしも学力の高さや活動歴

の多さと一致しているわけではありませんが、概ね経済状況以外の評価が高い志願者については、高い減免率の奨学金を獲得しているといえます。また、JASSO 奨学金（学習奨励費）については、JASSO より入学者数に応じて大学ごとに受給可能な人数が通知され、大学は入試時の評価点が高かった入学者から順に JASSO への推薦をしています。

提言 2 APU Zoom アカウントへの学外関係者のアクセスの許可

【学生の問題意識】

現在、APU の Zoom アカウントは大学関係者にアクセスを制限しており、APU 以外の参加者はこのアカウントで開催される会議に参加することができません。この制限は、以下のような様々な活動に Zoom を活用している学生団体にとって大きな障害となっています。

- APU 外からのゲスト講義やワークショップの開催
- 国際的な共同プロジェクトやイベントの開催
- 卒業生や国際コミュニティとの交流

【学生からの解決案】

APU Zoom を APU 以外の参加者にも開放することで、学生団体にとって技術的なハードルや経済的な負担が軽減され、グローバルな視野と多様な視点を持った包括的なイベントを開催することが可能になります。また、APU の国際化への取り組みをアピールすることができます。

回答

オンライン授業が開始された 2020 年春 Semester 当初は、学外から不正なアクセスにより大学の授業が妨害されることを回避するため学内関係者に制限し運営を行っておりました。その後、学外の学生を交えた授業運営等を開始されたこともあり 23 年 11 月以降は、学外関係者のアクセスを許可しております。したがって提案いただいている内容は 24 年 2 月現在、提案どおり運営されています。学外関係者がアクセスできることで便利になる一方で、モラルやプライバシー保護、セキュリティ対策は今まで以上に高く意識する必要があります。学生の皆さんについては IT リテラシーを深く理解し、少しでも不安な点があれば D 棟 3 階にある情報システム事務室へ相談するようお願いします。

提言 3 カフェテリアの食事の品質と価格への対応

【学生の問題意識】

現在のカフェテリアのメニューは、ベジタリアンやビーガン向けのメニューが不十分であることからわかるように、包括性の欠如が懸念されます。これは、提供される料理の質と量の低下とは対照的な、最近の物価の高騰によってさらに悪化しています。例えば、タイカレーは味の質が低下し、ナスは手に入らず、フライドチキンは値上がりしています。

Moodle やソーシャルメディアを通じて実施されたアンケートでは、カフェテリアの現状に対する不満が広く示されており、この状況は早急かつ効果的な解決策を必要とする重大な問題であることが浮き彫りになってい

ます。

注目すべきは、2021年度学生の声プロジェクトでも同様の懸念が挙げられており、この課題の根強い性質が浮き彫りになっていることです。

【学生からの解決案】

- 定食の導入：バラエティに富み、かつバランスの取れたランチを求める生徒の嗜好に応える、便利でお得な組み合わせの定食。
- ビーガン・ベジタリアンメニューの充実：植物性食品をメニューに取り入れることで、食事制限や倫理的嗜好に対応し、より多様性のある食事環境を提供。
- 食材レパートリーの増加：より豊富なメニューを提供することで、学生の欲求をさらに満たし、多様な料理の選択肢を探求するよう促す。

回答

大学としてみなさんの多様なニーズを満たす食環境向上につながる働きかけを行ってまいります。

生協は学生や教職員等に対して、食事提供においては中心的な役割を果たしており、ベジタリアンやビーガンなどに向けた多様なメニュー提供への期待が大きいことを理解しております。

昨今の物価高騰を受ける中ではありますが、生協としても低価格を維持するよう積極的に努力をしていただいているところであり、100円朝食の取り組みなども行っていただいております。また、2023年度には試験的に16:00以降のメニューでは定食を提供してきていますが、2024年度から本格的に同時間帯のメニューに定食を導入する予定です。さらには、ソイミートやヴィーガンパンケーキの提供、ハラル対応のメニュー開発などにも取り組んでいただいております。

提言 4 APU 発着の大分交通バスサービスの拡充

【学生の問題意識】

大分交通バスの現状、特に50番と51番（特に50番路線）は、APUコミュニティにとって大きな懸念材料となっています。私たちの学生の声プロジェクトでは、ソーシャルメディアやMoodleでアンケートを実施し、膨大なデータを収集しました。その結果、大きな懸念が浮かび上がりました【アンケート調査】

2023年12月、APUの非常に活発な学生を対象に、インスタグラム上でアンケートを実施しました。合計105名の学生が参加し、98%の学生が「大分交通のバスを増やすべきだと思いますか？」という質問に肯定的な回答をしました。バスの増便が必要だと答えた学生には、その必要性が最も高い時間帯や路線を具体的に尋ねました。注目すべきは、15~24人の学生がピーク時の混雑について明確に回答していたことです。具体的には、1・2時限目（別府駅発 APU 行き）と5・6時限目（APU 発）です。アンケートでは、ピーク時、特に1・2時限目（別府駅から APU まで）、5・6時限目（APU 出発）の混雑が懸念されていることが明らかになりました。特に、15~24人の学生がこれらの時間帯について明確に言及し、これらの重要な時間帯における過密と長い待ち時間の問題を強調していました。

【学生からの解決案】

APU コミュニティが経験する交通の課題に効果的に対処するため、以下の戦略的変更を提案します。

- バスの本数の増加：ピーク時、50番と51番、特に1、2、5、6時限目の運行本数を2倍に増やします。例えば、現在午前9時に2本のバスが運行されている場合、これを4本に増やすことで、過密状態と待ち時間を大幅に減らすことができます。
- 収容人数の大きい車両の使用：過密状態をさらに緩和し、乗客の快適性を向上させるため、特にピーク時には、小型バスを大容量の車両に置き換えることを検討します。

回答

大分交通のバスは、学生のみなさんの日々の通学において大変重要な役割を果たしていると理解しています。そのため、大学でも定期的に乗降の状態を確認し、問題がある場合には協議をするなどして、改善に向けた取り組みを行っています。

全国的にバスの運転士が不足していることは学生の皆さんもご存じのことと思います。大分交通においても同様の事態になっている状況についてはご理解いただけたらと思います。

バスの増便や大型バスを導入するためには、運転手の確保や新たな車両の手配などの経営上の課題もあり、すぐに要望に応えることのできる状態にはないと伺っていますが、改善に向けた協議を継続的に行ってまいります。

提言 5 Off-campus Study Program 参加への経済的支援の増加

【学生の問題意識】

APUは、多様な海外交換留学（短期・長期）を含む豊富なOff-campus Study Programを提供しているにもかかわらず、経済的な障壁が学生の文化体験への参加を妨げているという重大な課題に直面しています。Moodleフォーラムや専用アンケートを通じて集められた調査データは、明確な姿を描き出しています。

【学生からの解決案】

学生のOff-campus Study Programへの参加を促し、多文化体験を充実させるため、予算上の制約を考慮した上で、調査結果に基づき以下の解決策を提案します。

功績（能力）に基づく奨学金：学業成績（GPAなど）や課外活動への参加状況に応じて支給される、Off-campus Study Program専用の奨学金を創設します。アンケートの結果、回答者の100%がこのような奨学金は「やや必要」「必要」「非常に必要」と認識していることが明らかになりました。APUは、経済的な支援を受けられる価値のある学生を評価することで、参加への大きな障壁に直接取り組むことができます。

回答

APUでは開学時から学生の50%を留学生とし、日本の大学でも類を見ない多文化環境の中で学べる、真のグローバル大学を実現するという高い目標を掲げてきました。キャンパスにおけるグローバル・ラーニング・コミュニティ創成のため、特に入学時に選考される国際学生授業料減免の奨学金を充実させ、これまでに163カ国・地域からの国際学生を受け入れています。多くの国際学生の経済面を支えるこの奨学金は、規模も大きく、大学の奨学金予算の大きな部分を占めており、コロナ禍を経てなおその重要性は増えています。

そのため、予算総額や大学の政策上優先すべき事項といった点などから、Off-campus Study Program 等への参加を支援する奨学金は、現在では創設されていません。現状では Off-campus Study Program 等に参加するために経済的支援を希望する場合は、各自で学外の奨学金に応募する必要があります。

大学では、より多くの学生が Off-campus Study Program 等への参加が可能となるよう、各プログラムにおいて学習効果を担保しつつ無駄な経費を省き、少しでも安価な金額設定をするとともに、適宜利用可能な学外奨学金の案内ができるよう努力を続けます。

また、Off-campus Study Program 等への奨学金の創設については、一定の需要があることは大学でも理解をしています。奨学金の予算上今すぐに対応することは困難であること、また、単独の基金創設となるとその原資は1億円以上が目安となることなどから、その実現には奨学金原資や支援内容などについて、引き続き検討が必要と考えます。なお、大学における奨学事務の簡素化、効率化の観点から、奨学金は原則返済不要の給付金とし、返済が必要なローン型では行わない方針です。

提言 6 反対言語基準クラスでの学習経験の向上

【学生の問題意識】

APU では、特に日本語基準の学生にとって、必修単位取得の必要性が高いため、反対言語による授業履修が一般的になっています。日本語基準の学生が、十分な英語力を身につけることなく英語基準の授業に参加することは、共同活動や課題の遂行に支障をきたしています。このような状況は、学生の総合的な学習や学業成績に関わる問題につながっています。

【学生からの解決案】

反対言語基準クラスにおける学生の学習を向上させるため、コースカリキュラム情報提供の強化を提案します。

言語レベルの推奨を含める：既存の「言語基準」情報（E、J、E/J）と並行して、補完的な「言語レベル推奨」セクションを全学期時間割に統合します。これは、APU で標準化された語学クラスレベルに基づき、学生の実際の語学力レベルに合ったコースを選択するためのものです。例えば、「日本語中級」を修了した英語基準の学生には、「日本語基礎 3」以上を必要とする日本語基準のコース、あるいは「日本語中級」レベルのコースを推薦することができます。アクセスしやすくするために、この情報は学期時間割とキャンパスターミナルのコースシラバスの両方に記載する必要があります。

回答

日本語基準学生が反対言語を 20 単位以上取得することで得られる教育効果について教学部内でもそのメリットとデメリットを検証し、協議しています。反対言語の履修をどう整理すべきかという大きな枠組については、2027 年度以降に方向性を改めて整理する予定です。今回提案いただいた科目毎に「言語推奨レベル」を掲示することについては、授業を担当する先生の意向と学部科目全体のカリキュラムを俯瞰してどう整備すべきかという学部執行部の意向を丁寧に整理する必要がありますが、一つのアイデアとしては考えられる解決策だと感じています。24 年 4 月時点で一覧表に表記することは難しいですが、頂いた提案を受けて 24 年度以降教学部、各学部、センターと意見交換をしたいと思います。

提言 7 APU キャンパスにおける給水器の増設

【学生の問題意識】

現在 APU には給水器が D・E・F 棟の 3 棟にのみ設置されています。一方、B 棟、FII 棟、H 棟、J 棟の 4 棟には設置されていません。特に講義が集中する FII 棟と J 棟に給水器がないため、授業の休み時間には F 棟の給水器に行列ができることが多いです。F 棟の給水器は 2 台で、その内ボトルに対応しているのは 1 台のみです。そのため、学生数に対して著しく不足しています。

【学生からの解決案】

- 給水器の追加設置：特に学生からの需要が高い FII 棟と J 棟に給水器を追加設置。
- 全棟への均等な配置：現在給水器が設置されていない B 棟、FII 棟、H 棟、J 棟にも給水器を設置し、利用可能な棟を増やす（特に FII・J 棟を優先的に）。
- ボトル対応給水器の増設：約 8 割の学生がマイボトルを持ち歩いていることを考慮し、ボトルに対応した給水器の数を増やす。
- 温水提供給水器の導入：温水の提供が可能な給水器も導入し、冷水だけでなく温水の需要にも対応する。
- AP House への設置：「その他」として多く回答された、AP House にも給水器を設置することを検討する。

回答

APU キャンパスには、D 棟、E 棟、F 棟の 3 棟のみに給水機が設置されています。給水機の設置と利用状況については、提言を受けて利用状況の視察などを行いましたが、冬場であることもあり、提言にあるような給水機に行列があるような実態までは確認できませんでした。しかしながら、マイボトルを持ち歩いている学生の割合が 8 割程度まである実態があることを考えると、給水機の増設については検討の必要があると受け止めています。

また、給水機を設置するためには、水道管や排水管の設置なども必要になるため、設置できる場所は慎重に検討する必要があります。そのため、来年度予算において教室棟を優先して給水機の設置についての調査等を行うなど前向きに検討を進めてまいります。

以上